

中国東北(北満州)鉄路の旅「ハルビン・長春(新京)・黒河」の記憶 2

2011年(平成23年)9月18日～25日

宮岸 清衛

旧満州ハルビンの第一日目は黒竜江省の省都。20世紀の初め、帝政ロシアによって開発されたため、ロシア風建築物が多くあり「東方のモスクワ」とも呼ばれています。スターリン公園は松花江に沿って長い遊歩道が美しく、市民の憩いの公園になっており多くの老若男女が散策や何組ものグループが思い思いのトランプや楽器の演奏等を楽しんでいました。また水上スポーツセンターやレストランなどがあり、冬は松花江が氷り、氷上ヨットやスケート、馬ゾリなどで賑わうそうです。太陽島は戦前は白系ロシア人の高級別荘が建ち並んでいたそうです。今は改装されて労働者の保養所に。島全体は植物園のような感じで、中には日本庭園もあり散策には絶好の場所。夏は水泳で賑わい、冬は松花江の氷上を歩き、スケートを楽しむなど四季を通じて憩う市民が多いそうです。



満洲の大きな赤い夕日が松花江の川面に映えて太陽島の向こうに今沈んで行く。斯大林公園から



中央大街(旧キタイスカヤ)東洋の小パリと呼ばれており夕映えとネオンに輝き奇麗だった。

ホテルは哈尔滨万達假日酒店(ホリデインハルビン)は市街地の中央にあり外出には便利であったのか夜の街を散策して小さな買い物を楽しんだ人もいたようだった。

9月20日ハルビン空港から国境の街黒河へと飛んだ下界は少し曇っていたが黒竜江の向こうにロシアの森林地帯が見え隠れした。黒河空港は僻地の空港らしく閑散としていた。空港から黒河の街へは近く市街地はビル群に覆われ黒河街のビルにさえぎられていた。黒竜江やロシアのブラゴエスチエンスクの街もビルに隠されてよく見えなかった大変な発達の様子だ。



黒河空港は最果ての地らしく飛行機のタラップを降りても人影は少なく淋しいかぎり。



ホテルの窓から、バスの中からも見違えるように発達した様子がかがえた国境の街だからか、政治と経済を分離したからか？

私が在学した黒河在満国民学校は最初の訪問だったがすでになく寂しい限りでした。旅行の前大手新聞8月17日号の「声」欄に下記の新聞記事を「メル友」からもらい、記事の投稿者に電話をしたところ話の内容がピッタリでした。黒河在満国民学校の4年生の同級生が初めて見つかりました。お互い電話で感激しました。

旅行から帰ると京都の前原さんから手紙が届いており新聞を見て小泉さんから私を知っての手紙でした。前原さんは当時5年生だったが昭和20年8月9日、ソ連侵攻前の7月に黒河の国境から南の納訪へお父さんが転勤になり命拾いをしたとのことでした。

手紙を見て私は京都の前原さんを訪問して互いに生きていたことを喜びあいました。

前原さんとは昭和20年8月9日から終戦の15日までの黒河の日本人の状況を知りたい私も知りたい。新聞記事にあるようにどれくらいの人が自決したのか事実を知りたい。何とか小学校の同窓会は出来ないか、私はメル友から知った人を5人ほど知っている、前原さんも4人知っている何とか同窓会をしようと意見が一致しました。でもソ連侵攻時に黒河に住んでいた人は2人しかいない。

自決させられた同級生たち

無職 小泉 邦夫
(秋田市 75)

「万代君も星君も皆死んだよ。いずれも父上が子、奥さんの腹に撃ち、最後に自決されたようだ。満州(中国東北部)の国民学校4年生の時の同級生たちの最期だ。父が満州国官吏の私は1938(昭和13)年から黒河(現黒竜江省)の黒竜江のほとりの丘の上の官舎に住んだ。夏の夕暮れには対岸からソ連人のコーラスが聞こえてくるのどかな生活だった。私は万代君や星君らと戦争ごっこや駒を兵に見立てた行軍将棋、陣取り、メンコ、スケートなどを遊んだ。45年春、父の転勤で私は満州南部の錦州に移ることになった。黒河の級友たちと別れる朝、担任の先生は「北満州と南満州、遠く離れていてもお互い銃後をしっかり守ろう」と肩を抱いてくれた。8月9日、ソ連軍が黒竜江を越えて侵攻、黒河在住の日本人は不穏な兆候を察して1カ所に集結していたが、避難する手段も余裕もなかった。男たちはもはやこれまで、と最後の決断をしたのだ。わんぱく盛りの万代君も星君も、父親に銃口を向けられた子ともたちは、その時何を思っただろう。1歳上の隣家の信子さんとは毎日一緒に遊んだ。2人があまりに仲良しなので親たちは「将来添い遂げさせてもいいね」と話し合っていたのだと、戦後、母から聞いた。信子さんも消息を絶った。あの時の友はもう誰もいない。

2003年に黒河を訪問した時には旧黒河在満国民学校は健在で黒河市実験小学校としてエリート養成校でした。車の数も多く黒竜江沿いの、仁丹の広告が書いてあった元東州飯店(元黒河特務機関が裏で経営)もなくなっており、そのあたり一帯は黒竜江沿いのすばらしい黒河公園になっていた。



二〇〇三年九月一日に訪問した日は教育の国民の祝日で学校は休みでしたが校務員が懐かしい校内を案内してくれた。



つづく

二〇〇三年元東州飯店は撤去されて黒河公園の一部になったそうです。仁丹の広告がその時懐かしかった。